

(財) 第五福竜丸平和協会

〒136 東京都江東区夢の島3-2  
都立・第五福竜丸展示館内  
電話 (521) 8494



### 歴史の一原点としての福竜丸

福島要一

去年から、私は、日本学術会議の歴史を書いていきます。二期の中、一度欠けましたが、ずっと会員を致しましたので、他の人にはやれない仕事だからお前がやらなくては、と言われれば、それも御もつともなので、断り切れずに、書き始めて、去年の暮に上巻が出ました。

と言っても、何巻もかけて、必要なものを拾って行く、などという事は許されませんので、上巻は思い切った、発足から独立まで、その間、学術会議で最大の論争になった、全面講和か片面講和かの論議を、総会の記録を追って再現しました。

下巻はそんな書き方が許されないの、原子力問題、大学問題、研究計画問題、国際交流問題などいくつもの項目に絞って書かざるを得ません。そしてやっと、どうやら原子力問題の目鼻がついたところです。

原子力研究問題は講和が発効する前後から始まりました。既に一九五二年に、原子力の研究をやるべしという議論が一部に起りました。しかし大方の学者は、この冷戦の最中にうっかり、

原子力研究に力をかすのはあぶない、という空気で、仲々具体的な研究とまでは行きませんでした。それが中曾根康弘代議士がアメリカのお墨付を貰って、何の根拠もなく、昭和二九年度予算に二億三千五百万円を計上させ、それが三月四日に国会を通過しました。

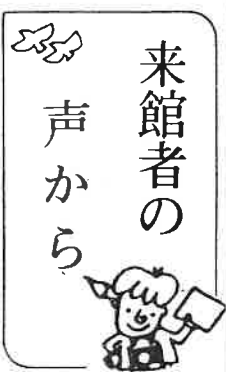
言う迄もなく三月一日には、ビキニ水爆実験が行われ、やがて第五福竜丸の船員たちが被爆したのです。現在なら、これだけの事件が起れば、遅くともその翌日にはテレビや新聞で報道されますが、当時は、誰もこの事実を知りませんでした。福竜丸が焼津に帰港する数日前から、うすうすと噂が伝わっていました。本日に騒ぎになったのは一六日以降です。

もし福竜丸の事故が、三月二日に判っていたら、国会での原子力予算は恐らく成立しなかったでしょう。少くとも一年は遅れたでしょうし、それと関連して、日本の原子力研究も、もう少し、検討されたでしょう。そして、原水爆反対の国民運動も、もっとすすきりしたのにならうと思えます。

原子力の平和利用などより先に、まず日本政府が核兵器反対を確認せざるを得なかったかもしれせん。実際には、四月一日、衆議院で「原子力の国際管理」を要望する決議がなされたのですが、もし、三月の予算決定がなかったら、もっと素直に、核兵器禁止が前面に出てもいいかもしれません。

この衆議院の決議は、その後一月あまり経って、参議院でも決議されましたが、その時には曲りなりとも「核兵器禁止」という言葉が入っています。それは、三月にはじまった、お母さん達の原水爆反対の国民運動が既に盛り上って来て居たからでしょう。

第五福竜丸は、こうした日本の大きな歴史の一つの曲り角の生き証人です。そしてそれは、単に被爆の怖しさを知らせるだけでなく、歴史の中における偶然と必然、そして人民の運動と権力者の立場などを考えさせてくれる生き証人です。そして、この時点での様々な動きが、やがて、安保闘争にまで徐々に盛り上って来ます。一方で、原子力発電の論争が学者の中で烈しく行われました。そうした流れの中に、第五福竜丸はありましたし、それは決して過去の記念物ではなく、現在の私たちのものの考え方の一つの基本です。(第五福竜丸平和協会評議員)



みなさん、私はここに来て本当によかったと思います。感動のうです。今まで何のために十六年

間生きてきたのだろうと思いましたが、こんな莫大なかつ重大なことを知らずに生きてきたなんて。よくTVなどでこのような原爆に関することは拝見したこともありましたが、こんなにも身近に感じたことはありませんでした。(中略) 小岩のみなさん、是非他人のを写すのでなく己の目でしかと見届け

て下さい(無記名)。

前に書いているのは私の友人です。わが都立小岩高校では修学旅行の事前学習として新二年全員がここに来ることになっているのです。確かに最初は半強制的に来させられたという感じでしたが、得られるものは大きかったと思えます。

### 水産大学に繋留されていた第五福竜丸

矢野政昭

いま、第五福竜丸展示館に、私たちが作っている組合機関紙のNo 238が掲示されています。

なぜ、そんなものがあるのかと言くと、水産大学の練習船として船名まで変えていた、はやぶさ丸を第五福竜丸だと、見抜いた記事がのせられているからです。

この機関紙はB5版のガリ印刷りのもので、日刊で発行していた港湾分会ニュース・一九六七年二月二十八日(火曜日)付発行のもので、

当時コラムとして、アンテナと言うコーナーを作っていました。そこに、こんな文章があります。

△明日は3月1日、今から13年前ビキニ環礁でアメリカの水爆実験によって、日本のマグロ漁船第五福竜丸が被爆した日を記念する、3・1ビキニデーです。

久保山愛吉さんが殺され、原爆の被害を三度も受けたのは日本人だけです。平和を守る活動が特に

今、ひじょうに大切で、工事業の近くに水産大学があります。ここに今第五福竜丸がながれていますが、考えていたより小さな船ですが、この船をじっと見ていると、二度とこんな事があってはならないと強く感じます。

この記事を書き、ガリを切った

のは私です。

一九六七年の一月下旬頃だったと思いますが、天王洲にあった工事一課の中島至さん(現・清掃局勤務)から電話で、「水産大学の岸壁に第五福竜丸があるぞ」と連絡がありました。私はビックリして、すぐに見に行きました。大学構内は入れないので、天王洲橋から見ただけですが、白い木造船が並び、白が見えました。第五福竜丸とは書いてないので、念をおすと、「絶対まちがいないよ」……と言ったので、この記事となったのです。

一九六七年の秋、現場に行ったら仲間から、第五福竜丸が夢の島に曳航されたことが知らされ、その写真に「第五福竜丸を保存しよう」と文字を焼き込んで貰い、カンパに取り組みました。

私たちの職場には船舶工場があり、その技術者からも早くしないと、腐食すると指摘され、急いで五十万円のカンパ目標をたてました。最初は給料の半端額、百円以下を職場の皆さんにお願いしましたが、給料日ごとにカンパも目標には道遠しです。なんとかしなければと、次には有楽町駅前でのカンパ。組合事務所に戻ると、「総務局から知事の許可とってあるかって電話あったぞ」との話。私たちは許可がなければカンパ集めが出来ないなんて知らなかったんです。また大田体育館で開かれた原水禁大会へ参加した人たちにもカンパをお願いするため夜遅くまでガンパッタこともありました。

もう、だいぶ前のことですが展示館の広田さんが組合事務所に来られて「第五福竜丸と見抜いて記録に残したのはこのニュースが一番最初だったろう」とコピーを持って行かれました。

分会ニュースは、いまも潮流と名前を変えて日刊で発行されています。(都職労港湾支部)

### 平和随想 (四)

三宅 泰雄



第二回バグウォッシュ会議もまた、カナダのケベック市にちかいラック・ポーポール(LAC-POURPORT)で開かれました(一九五八)。出席者は二十二人うちアメリカは八人、ソ連とイギリスは各四人で、核兵器大国からの参加者が増えました。のちに十五カ国の首脳とローマ法皇、国連事務総長に議事録を送りましたが、フルシチョフ(ソ連)、ネール(インド)、テイラー(ユーゴ)、ディーン(カナダ)から、会議を高く評価する返事がとどきました。アメリカ国務省、ローマ法皇庁からも謝辞が寄せられました。日本の岸首相からは梨のつぶてでした。

第三回は同年九月に、オーストリアのキッツビューエル(KITZBUEHL

チロル)とウィーンで開かれました。会議は五日間、グランド・ホテルを借り切って行われました。オーストリアは第二次大戦後、永世中立を宣言しました(一九五五)。会議の開催にはシエルフ大統領をはじめ、政府と民間財団からのあたたかい援助がありました。第三回会議には七十人の科学者が集まり、国数も二十カ国に増え、日本からは朝永、小川、坂田(昌一)と私の四人が参加し、湯川さんはウィーンで私たちに合流しました。

会議ではイギリスのパウエルが議長役でした。パウエルは娘さんと同伴でしたが、その十七、八の娘さんが、立派なホステス役をたしているのには感心しました。ある晩ミス・パウエルの主催でコンサートが開かれました。ミス・パウエルはギターが弾きたくて、イギリスの民謡をうたいました。ソ連の科学者はトプチェフ(ソ連科学アカデミー副会長)の音頭で、ステンカ・ラーズンを合唱、アメリカのハリソン・ブラウン(アメリカ科学アカデミー会員)はジャズ・ピアノの腕前を示しました。日本人も、うろおぼえの童謡をう

なるなど、数々の珍芸が披露されたのち、科学者たちはワイン・グラスを手にして、夜のふけるまで音楽を楽しみました。

最後は全員がウィーンに移り、九月二十日の朝、オーストリア科学アカデミーで集合、シエルフ大統領とラッセル卿からの挨拶がありました。そのあと大統領の招待で昼食会、午後はウィーン公会堂で一万人の大聴衆を前に「ウィーン宣言」が発表されました。宣言文はキッツビューエルで採択され、バグウォッシュの「信条」となったものです。

「ウィーン宣言」は冒頭で、つぎのようにのべています。「われわれは核兵器の発達が人間に対し文明の、実は人間自身の破壊を明白にしたとき、キッツビューエルとウィーンに会している。破壊の方法はさらに効率化しつつある。本会議につらなる科学者は長くこれらの開発に関与してきたが、全面核戦争が未曾有の規模で、世界に破局をもたらすとの意見で一致している。

われわれの見解では、核攻撃に対する防御はきわめて困難である。防御手段への無限の自信は戦争の

ぼつ発に手を貸しかねない。諸国家がたとえ、世界の兵器庫から核兵器と他の大量殺りく兵器の掃に同意しても、この種の兵器生産の知識はけつして破壊できない。……いつか今後の大戦争では、交戦国は意のままに核兵器の製造に着手できるばかりか、むしろそれを余儀なしと考えるだろう。従って人類は局地戦争を含み、すべての戦争廃絶の仕事にとりかからねばならない。」

「核戦争の廃絶」には、まず「戦争そのものの廃絶」を求めるとバグウォッシュの一貫した「信条」として受けつがれています。

バグウォッシュ会議はいままで三十三回開かれ、数々の貴重な提言をしてきました。私は第三回の他、第十二回(ヴダイプール、インド)、第十七回(ロネビー、スウェーデン)および東南アジア地域会議(メルボルン、オーストラリア)に出席しました。昨年九月、ブタペスト(ハンガリー)での第三十六回会議には百人以上の科学者が集まり、わが国からは福島要一さん(本協会評議員)ら

### 中学生の修学旅行、高校生の見学あいつぐ

展示館の出入口も新しく

展示館を訪れる人々が増え、説明にうれしい悲鳴のこの頃ですが、とりわけ中学生の修学旅行、高校生の課外活動による来館が増えました。春休みには江戸川区小岩高校の二年生全員が、広島修学旅行の事前学習にと連日三、四人の班を作って来館、熱心に展示内容をメモし、感想文を書き残しました。

高知の高校生のように私たちもビキニ事件を深く知り郷土の被災船の調査もしたい、と埼玉・千葉



県の高校生平和ゼミナールの若者がいま展示館で学習中です。

乗組員の証言を聞く

四月二十八日、八王子市長長房中学校の二八〇名の二年生が展示館を見学【写真】。生徒代表の司会で展示館をバックに乗組員大石又七さんの証言を聞き質問を集中しました。

### 立派な出入口完成

風雨の強い日は、容赦なく雨やほこりが吹きこみ床が水びたしになる展示館の出入口でしたが、四月二〇日、三カ月余の工事によって立派な二重の出入口が完成し、難題が一つ解決しました。三m四方、高さ七m近いドーム型・強化ガラスの風防が東西の出入口前に設けられ、薄いセピア色の扉には白く鮮かに「第五福竜丸展示館出入口」の文字が浮き出しました。

地盤沈下で随所に大穴があいていた外周も整地され、レンガ風の敷石の遊歩道が建物の表側をとりまくように新設されました。周囲には「はじめての日々草」のかわいい草花がいつはいに植えられ、秋にはピンクの可憐な花を咲かせるとか。

### 大石又七さんの 「悲しい別れ」 を読んで

成岡晶子

別れ——ましてや苦楽を共に

した同僚に亡くなられていく。そのたびに慟哭し、あきらめきれない気持ちをいつまでもいつまでも持ちつづけている心境は他の人には想像もつかないくらい強いものだと思います。あのビキニ環礁でアメリカの水爆実験に遭遇しなかったら、死の灰をあびなかったらこのように一人かけ二人かけしていく事もなく、家族と共に楽しい生活を終えて天寿をまっとう出来たはずです。人間は死ねば何もかも終り、去る者日々に疎しが普通ではないでしょう。でも同じ運命に遭遇した福竜丸の方々は仲間の死が人事でなく自分の身におきか

えて考えてしまう事は当然であり、又、その悲しみは苦しみに変わり、残念と云うよりくやしさをおさえることも大変だと思えます。

今年の三・一ビキニデーには二月二十八日「生協の夕べ」を開き全国の生協から五百五十余名が静岡へ集まりました。東京から大石さんに来ていただいた被爆当時のなまなましい体験を話していただきました。

あの時から乗組員の方々の運命は変わったのです。一見お丈夫そうな大石さんも仲間の死に直面するのが何よりこわい、とおっしゃっていました。私達も体験者でなければ分らない心中までは入っていく事は出来なくとも何らかの形で平和を訴え、守る運動を続けて参りたいと思

(静岡県生協連)

